

# 都市環境負荷の長期予測シミュレータ開発

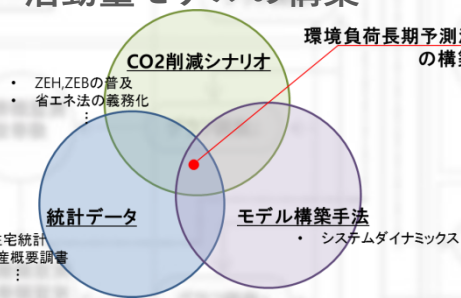
-SDによる汎用ハビタット大規模モデルの構築

## ◆ 研究の背景及び目的

- 2050年まで現状から、対象都市におけるCO2排出量の60~80%削減を目指す
- 大幅な削減にはどのような技術や制度が普及できるのかシナリオ検討が不可欠
- 都市持続化観点から効果的な施策立案を支援するシミュレータを開発して、それを用いて検討を行う

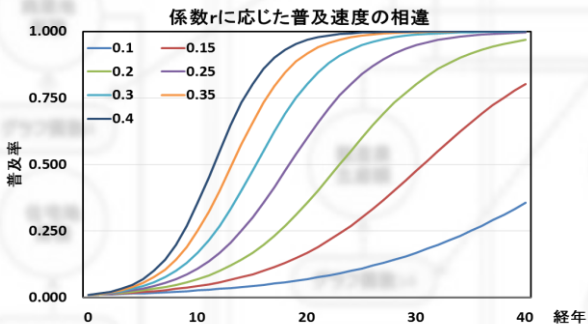
## ◆ シミュレータの構築

### (1) 活動量モデルの構築



特定した環境負荷排出部門に基づくシミュレーション手法が、どのような都市でも検討できるように都市の共通点を把握し、その上で中規模の対象都市を決定して研究を行う

### (2) 低炭素技術普及曲線決定モデル



低炭素技術ごとの普及速度が経済状況によって決定されるように、普及曲線を一般化、活動量モデルを連係

### 汎用ハビタットモデル

#### (1) 活動量モデル

#### (2) 低炭素技術普及曲線決定モデル

#### (3) エネルギー原単位データベースモデル

### (3) エネルギー原単位データベースモデル



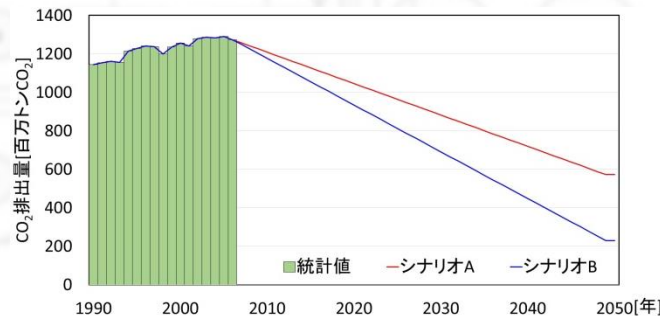
低炭素技術適用による削減効果  
エネルギー原単位のデータベース化

## ◆ シミュレータの検証



異なる特性をもつ地方都市への適用シミュレータの汎用性を検証

## ◆ ベスト削減シナリオの提案



### 日本のCO2排出量削減シナリオの検討

シナリオA	シナリオB
未来志向社会	伝統志向社会
1990年に比べて50%削減	1990年に比べて80%削減